

Experience 研修情報紹介

令和元年度良質な医師を育てる研修

国立病院機構では、毎年、多彩な内容で「良質な医師を育てる研修」を開催しています。豊富な経験を持つ先生方が講師を担当。実践的なスキルが身につく充実のプログラムを提供しています。今回は2019年11月の「神経・筋（神経難病）診療初級・入門研修」をご紹介します。

「神経・筋（神経難病）診療 初級・入門研修」

国立病院機構の重要な役割として、神経・筋難病医療などのセーフティネット機能があります。今回は入門研修として、実習による問診から神経診療の基本を学ぶセミナーを企画しました。

OSCE (Objective Structured Clinical Examination) を模したグループ学習では、各グループにファシリテーター 2名を配置。翌日、代表者による発表会を実施し、全体で意見交換を行いました。参加者が事前に作成してきた疾患のシナリオ（病歴と神経所見）にしたがって、グループごとに医師役・患者役・評価者役となり、問診や診断に至る過程を再学習するという流れは実践的で分かりやすいと大変好評でした。

また、非侵襲的陽圧換気 (NPPV) 療法等の講義・ハンズオンを通じて神経筋疾患の呼吸不全対応のスキルアップも目指しました。講義では各種疾患や制度について学ばせ、キャリア形成の経験談などを盛り込み、医師として広い視野を持てるプログラムを組みました。専門医取得前の研修医の皆さんに、医学と実習の両方から脳神経内科の魅力を伝えることを心がけました。

令和元年度 良質な医師を育てる研修

「神経・筋（神経難病）診療 初級・入門研修」

- 対象：①初期臨床研修医で脳神経内科領域に中心のある医師
②脳神経内科後期臨床研修医・専修医（日本神経学会専門医取得前の医師）
③他科後期臨床研修医・専修医で神経内科領域に中心のある医師

日時：令和元年11月22日（金）～23日（土）

会場：国立病院機構南岡山医療センター

参加者：23名

■ 研修内容

1日目

講義：パーキンソニズムの鑑別診断
実習：4グループに分かれて神経系統診察手技の確認
講義：筋疾患の診かた：診察から治療・ケアへ
講義と実習：グループごとのロールプレー学習
講義：末梢神経障害を見つけよう
意見交換会

2日目

講義：神経筋難病医療の現在と近未来
講義と実習：グループ代表による
ロールプレー学習発表会
講義：NPPVの基礎
講義：NPPVの臨床
実習：非侵襲的陽圧換気療法等・呼吸リハのハンズオンセミナー
ブース1「NPPV機器」
ブース2「カフェアシスト」
ブース3「呼吸リハビリ」
講義：急性期総合病院での神経難病診療

参加者の声

〈参加者の声 1〉

講師の先生方が神経診療のコツやポイントを教えてください、自分の診療についてフィードバックをいただいたことでとても勉強になりました。貴重な機会をありがとうございました。

〈参加者の声 2〉

同年代の同じ神経内科の先生方と交流でき、刺激を受けました。また、普段はなかなか聞けない貴重なお話が伺え、見識が広がりました。

〈参加者の声 3〉

講義はすべてポイントを絞った分かりやすいプログラムばかりで充実した内容でした。ロールプレー学習と講義のバランスが良く、集中力を切らさずに研修に臨むことができました。

〈参加者の声 4〉

NPPVは研修医の段階では関わることは少ないのですが、具体例もあり、導入のイメージができました。参加して本当に良かったです。

〈参加者の声 5〉

初期研修が始まってからロールプレーをやる機会はほとんどありませんでしたが、患者役を演じることで神経学的所見がどのような意味を持つかを改めて考えることができました。さまざまな症例を体験できたのも有意義でした。

〈参加者の声 6〉

ロールプレーのシナリオを考えるという事前課題があり、結果的に予習につながりました。自分が演じることで疾患をより詳しく理解でき、いかに診察を進めていくかが学べました。

〈参加者の声 7〉

第一線で活躍される先生方のtipsなどをロールプレーでは学ばせていただき、大変勉強になりました。ファシリテーターの先生のフォローで密度の濃い実習ができ、感謝しています。

〈参加者の声 8〉

普段学べないことが多く、全体を通して実技も講義も身になるものばかりでした。復習しながら今後の診察に活かしていきたいです。

